

五百文、からかみしの手間代五百文、みすあり、以上五貫四百文、右注進如件、應永卅四年十月廿九日遠廣判、

〔新儀式^五〕皇太子加元服事

皇太子將加元服^略○中 又御帳西立通障子二基、

〔江家次第^{十七}〕東宮御元服

一不推通障子事

案舊記、件通障子自例北去一尺七寸、爲覽威儀御膳也云云、

〔左經記〕寛仁二年正月七日辛丑、早旦攝政殿^{藤原}令參下給、御元服賀表、^略○中 出通障子西妻、取表

筥還出奉攝政殿、

〔運步色葉集^登〕通入障子^{紫宸殿后七廻}○中 障子名

〔易林本節用集^乾〕通入障子^{紫宸殿後七回中間云}○中 障子、又作鳥居障子、

〔槐記〕享保十二年八月十二日、華表ノ字ヲ、トリキト訓ズルハ不當ト、淺見安正ガ申タリ、モト鳥居

ト云ハ、

トシタ形ナモノヲトリキト云、トリイ障子ナド云モ、ツイタテニ障子ヲハメタルモノ也、トテモ漢字ノナキモノハ假名ニテ鳥居ト書ガヨシト仰ラル^{中略}鳥居トカキテモカナ也

〔安齋隨筆^{後編十一}〕一鳥居障子

請問

鳥居障子ハ、衝立障子ノ事歟、如何^{通障子別な事勿論}

鳥居障子は通障子にては無御座候哉、通り入ルとかな書にて、鳥居障子と申由、承り傳る計

御座候、舊記の考は無御座候

〔兵範記〕久安五年十月廿五日癸酉、今日任太政大臣云々、^略○中